

平成 29 年度事業報告書

平成 29 年 7 月 1 日から平成 30 年 6 月 30 日まで

特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂

1 事業の成果

平成 29 年度は、新潟県内の小・中学校、高等学校における「人とかかわり、地域に学ぶ・郷土愛を深める防災教育」の推進・定着のサポートと持続可能な学校・地域・家庭の連携を目指し、以下の①から③を重点活動として取り組んだ。

- ① 継続可能な防災教育の推進とその取組を持続可能にしていく仕組みづくり
防災を学習題材としてとらえた実践事例の情報発信
- ② 地域（ふるさと）の未来を創る・切り拓く教育活動のサポート
- ③ 「こども防災未来会議」の課題及び継続可能な事業規模の再考

① 防災講座や授業の実施や教師と共に相談しながら考える授業づくり、資料提供、授業や講座実施後の効果分析、地域や家庭、外部団体とのコーディネート等を計 181 校 13 団体に行った。学校単独で継続していくことが前提のサポートより、地域・家庭、外部団体と連携した活動提案やその調整、さらには継続していくための仕組みづくりを望む学校が多い。長岡市が取り組んでいる防災玉手箱（地域が学校に訪問して、最新の教材に差替える副教材、活用をサポートする講師派遣制度、それらをコーディネートするよろず相談窓口の設置）が本格的に始動し、各学校の所在地域に「学校の理解者」を配置する仕組みを進めている。「〇〇さんだから、この仕組みを活用しようと思えた」等、持続可能な地域一体での教育の推進に可能性を感じている。新潟市、長岡市、新発田市等の市域で防災教育に取り組む市町村を中心に、事業提案から試験的な実装・検証を行い、課題を整理したり、提案内容をよりニーズに対応したものに作り替えたりして、法人運営面でも継続が可能な形にしていきたい。

情報発信面では、ホームページ開設後から月 5 回程度の更新を継続している。アクセス数は 1 か月平均 340 件程度、具体的な事例を調べたい方向けとして、災害種別や活動内容で簡易検索ができる工夫を追加した。また、手元に届く、残る紙媒体の事例紹介も求められているため、広報誌「みらいの種」を作成し、県内の小・中学校や防災、教育関係施設に配布した。現場のニーズに応えるべく、タイムリーかつコンスタントな情報発信を継続していく。

- ② 郷土愛を深める防災教育の推進に力をいれて活動を継続した結果、新発田市では市の特色ある教育活動として位置付けることができた。今後も生きる力の育成を念頭に、人とかかわり、地域に学ぶプロセスデザインをサポートしていき、対話的で深い学びを実現する学習題材（課題）としての防災を推奨していく。
- ③ 初の佐渡市からの参加があるなど、イベントの認知度や魅力は伝わっている等実感できている。しかし、引率者のアンケートから、開催時期や日程等からイベントへの参加のハードルが高いことが明らかになった。実際にかべ新聞は作成しているが、イベントへのエントリーは

見合わせている学校もある。より多くの学校が参加しやすいイベントにするために、次年度は開催時期の調整（12月初旬）と時間を半日にして実施する予定。自主事業として継続していきけるノウハウとつながりは蓄積してきた。事業費の捻出方法のみが課題として残るが、継続していく中で事業効果を分析・発信を丁寧に行い、寄付金や協賛の獲得に力を入れていく。

次年度も地域と連携した持続可能な防災教育の推進から、学校・地域・家庭が連携した共育社会の再建・創造に向け、サポートと仕組みづくりを推進していく。県内外の教育や防災関連機関や団体等と連携し、「地域全体で郷土愛を深め、よりよいふるさとの未来を創造する教育」として、新潟県の郷土教育化と防災教育の文化“化”を目指す。

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(単位：千円)

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
防災教育及び環境教育等の実践に関する学校等の支援事業	①ふるさと新潟防災教育推進事業（学校サポート）	年度当初から年度末	①県内全域	3人	新潟県内の小・中学校、高等学校の教員及び児童生徒、保護者、地域住民、防災・教育関係団体等	1,802
	②長岡市防災教育コンテンツ学校サポート事業		②長岡市	6人		3,894
	③新潟市「防災教育」学校地域連携事業		③新潟市	6人		3,409
	④新発田市内小学校の防災キャンプサポート		④新発田市	3人		1,276
	⑤西蒲区防災キャンプ事業		⑤西蒲区	3人		615
	④その他事業		④県内全域	3人		318
防災教育及び環境教育等の実践に関する地域及び家庭の支援事業	①長岡市親子防災教室等運営委託業務	年度当初から平成30年3月まで	①長岡市	2人	新潟県内外の未就学児、小・中学校、高等学校の教員及び児童生徒、保護者、地域住民、防災・教育関係団体等	281
	②新潟県立白根高等学校における防災教育支援業務	年度当初から年度末	②新潟市	2人		222
	③ホリカフーズ(株)教材開発事業		③県内全域	2人		167
	④その他防災教室		④県内全域	3人		176

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
安心安全なまちづくり及び地域づくり支援事業	①新潟市西蒲区 西蒲 The ミッションサポート	平成 29 年 7 月から 9 月まで	西蒲区	3 人	新潟県内の 小学校児童生徒、 地域住民、防災・ 教育関係団体 等	218
	②企業等防災研修	年度当初から年度末	県内全域	2 人	新潟県内の 企業、地域住民 等	67
防災教育及び環境教育等の推進、並びに安心安全なまちづくり及び地域づくりに関する交流・イベント事業	①よりよい未来の新潟を子どもと一緒に創るプロジェクト「こども防災未来会議 2017」の開催及び県内 3 箇所での「防災かべ新聞展示会」	平成 29 年 10 月 6 日から平成 30 年 3 月 31 日まで	長岡震災アーカイブセンター 一きおくみらい、 県庁 他	16 人	新潟県内の 小・中学校の教職員と児童生徒、 保護者、地域住民、 防災・教育関係団体 等	730
	②親子で体験イベント「あそびまなぼうさい」	平成 30 年 3 月 10 日	長岡市健康センター	5 人	長岡市内小学校 3 年生から 6 年生の 児童生徒とその 保護者	194

・防災教育及び環境教育等の実践に関する学校等の支援事業

<小学校の事例 ①>

全校縦割り班での防災グッズ作り

長岡市立阪之上小学校

種 別	地震災害
日 時	平成 29 年 10 月 23 日（月） 13 : 45 ～ 14 : 30
対 象	全校児童
目 的	被災した人を支援するため、自分にできることを考える。

主な活動内容

- ・「阪之上小防災の日」にて、全校児童を対象に「被災した人を支援するため、自分にできることを考える」をテーマに防災教室を行った。
- ・今回の学習は「防災グッズ作り（新聞紙スリッパ）体験」を行った。



参加者の感想

- ・新聞紙でスリッパができるなんてビックリした。自分でできることは何かを考えて、避難してきた人のためになることをして、みんなが楽しくできるように考えるのが大切だと分かった。
- ・今日学習した新聞紙スリッパなど、自分でできることは沢山あるし、お年寄りや赤ちゃんを優先し、みんなで乗り越えていきたい。

- ・平成 16 年に発生した中越地震から 13 年。中越地震の被害状況や避難所となった阪之上小学校の様子、体験談について講話させていただいた。当時の避難所の写真を先生に提供いただき、実際にスライドで見せると、子どもたちの表情は一変。自分たちの小学校（避難所）で起こった話について、真剣に聞き入っていた。
- ・その後、縦割り班に分かれ、新聞紙スリッパ作りを体験。班ごとに上学年の子が下学年の子に優しく作り方を教えており、教えてもらった下学年の子は「ありがとう！」ときちんとお礼を言っていた。

<小学校の事例 ②>

地域安全マップ作り

新潟市立小瀬小学校

種 別	地震・津波災害
日 時	平成 29 年 9 月 30 日（土） 10：30 ～ 12：00
対 象	小学校 5～6 年生
目 的	地域を歩き、津波や地震発生時の危険箇所や避難場所を調べる。

主な活動内容

- ・5～6年生を対象に「地域安全マップ作り」をテーマに防災教室を行った。
- ・まずは、小瀬小学校周辺の津波ハザードマップを紹介。実際にどのくらいの高さの津波が予想されているのか、確認した。
- ・次に、まち歩きで危険箇所・役に立ちそうなポイント等調べることを説明し、各地域に分かれ、まち歩きスタート。保護者ボランティアの方々のアドバイスを参考にしながら、「電信柱が倒れたら危ない！」「この畑は広いから安全」等、調べた箇所を写真に撮り、地図に書き込んでいた。



- ・学校に戻り、まち歩きをして分かったことを地域安全マップにまとめ、完成させた。調べた箇所に撮影した写真を貼り、赤・青・黄色シールでそれぞれ色分けしたり、他の人にも伝わるようプロッキーを使い、工夫しながらまとめた。
- ・全体発表では「ブロック塀にひびが入っていて、道に崩れてくる」「ガラスが多く、歩道や道ぎりぎりの家が危ない」等、細かく調べた結果が発表された。
- ・まち歩きの時間は短かったものの、活動から沢山の発見があり、真剣に取り組んでいた。

参加者の感想

- ・もしもの時に、自分の命を自分でしっかり守れるように、これからも危険な場所を探したり、どう行動したらよいかを考えていきたい。

<中学校の事例 ①>

地域・学校と連携した防災学習

長岡市立西中学校

種別	避難所運営
日時	平成29年9月7日(木)～10月19日(木) 8:40～10:30(毎週木曜日)
対象	中学校3年生(防災コース選択者の生徒)
目的	地域と交流し、中学生が自分にできることを主体的に考えるような活動にする。

主な活動内容

- ・地域の防災士の方から避難所(避難所での困りごと等)について説明があった後、地域の方(学区内の民生児童委員・コミュニティセンター長・町内会長・地区社会福祉協議会長・元消防士・元行政職員等)に各グループ1人入ってもらい、避難所運営ゲームHUGを一緒に体験した。
- ・その後、体験しての気づきや感想を共有し、災害が起きた時に「自分たちにできること」



参加者の感想

- ・地域に防災について学んだことを発信するためにチラシを作った。このチラシを地域に配ろうと考えている。
- ・防災グッズ作りを覚えれば、災害時に役立つものばかりなので、覚えておきたいと思う。

- ・全体発表で、「自分たちにできること」を地域の方に発表し、感想を聞いた地域の方から、最後に中学生へのメッセージを伝えた。
- ・「地域ではこんな準備をしている」「地域や高齢者の方に声かけをする時は大丈夫ですか?ではなく、具体的な声かけをしてあげるとよい」「避難所ではがんばりすぎない」「中学生も地域の一員」等、様々なお話を聞くことができた。
- ・その後、再度「地域に求められていること・自分たちにできること」をグループで話し合った。
- ・これまでの学習を通して、まとめたいテーマを決め、その中からさらに調べ活動を行い、これまでの活動について新聞にまとめる作業を行った。

<高等学校の事例 ①>

地域・行政と連携した学習 ②

新潟県立白根高等学校

種 別	避難所運営
日 時	平成 30 年 1 月 30 日 (火) 13:00 ~ 14:30
対 象	高等学校 3 年生
目 的	地域とともに歩む白根高校の生徒としての自覚と誇りを持ち、より安心・安全な地域づくりのため、地域の担い手として、自ら学び、自分にできることを考え、実践しようとする生徒の主体性を育む。

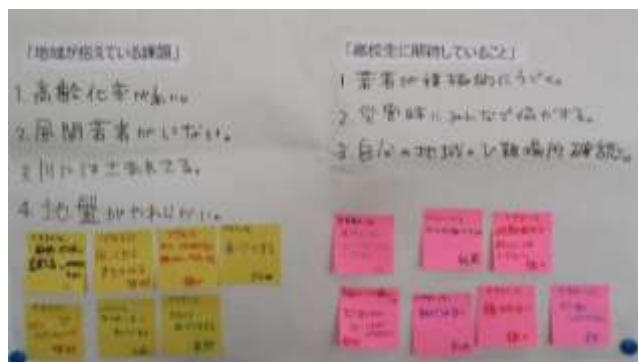
主な活動内容

- ・白根地域の自然災害のリスクについて学んだ後、グループで、地域の方から災害発生時に「地域が抱えている具体的な課題」「災害時に高校生に期待していること」についてのお話を聞き、その内容をワークシートに記入した。
- ・各自がワークシートに記入した内容をグループ内で共有し、模造紙に「地域が抱えている課題」「高校生に期待していること」を整理し、地域の方に確認した。不足している点について助言していただき、追記した。



参加者の感想

- ・普段地域の人と交流を深める時間がないので、行事に出たりして交流することが大切だと思った。災害時、私たち高校生の力はとても重要だということを知った。



- ・地域の方から聞いた「地域が抱えている課題」を解決するために、「今の自分にできること」を考え、付箋紙に記入した。「高校生に期待していること」の中から「今の自分にはできない・できないと思うこと」を抽出し、「そう考えた理由」を付箋紙に記入した。
- ・各自記入した付箋紙を模造紙に貼り出し、地域の方を含め、グループ内で自分の考えを伝え合った。全員の考えを伝えた後、地域の方から生徒の考えに対する感想を聞いた。
- ・南区総合防災訓練の様子を紹介し、参加した生徒・地域の方から感想を發表してもらった。
- ・参加者の發表から、「今の自分にできること」「1年後の自分ができるようになりたいこと」を考えさせ、「地域の一員としての1年後の自分の目標」をワークシートに記入した。

<教職員向け研修会の事例① >

新発田市小学校防災キャンプ事前研修会

新発田市教育委員会・新発田市教育委員会学校教育課

種 別	防災キャンプ
主 催	新発田市教育委員会中央公民館・新発田市教育委員会学校教育課
会 場	新発田市青少年宿泊施設「あかたにの家」・新発田市滝谷森林公園
日 時	平成30年4月25日（水）9：00～26日（木）11：00（1泊2日）
対 象	新発田市内 全小学校 19校 教職員
目 的	<ul style="list-style-type: none">・市の防災教育の方針を踏まえ、活断層帯である楡形山脈断層帯を有する本市において、防災キャンプ（防災教育）を実施する意義について理解を図る。・各学校が実施主体となる活動プログラムの体験や指導方法を知り、防災キャンプ実施に見通しを持つ。・防災教育の専門家を交えて、各学校で取り組む防災キャンプの実施計画（案）を検討し、練り上げる。

主な活動内容

- ・防災教育に取り組んでいる専門家から、郷土愛を深める防災教育の重要性・可能性、防災教育が目指すところ・防災キャンプの可能性について講義を実施。
- ・非常食体験（救給カレー・乾パン）後、あかたにの家活用プログラム体験①として、滝谷森林公園にて川体験活動の説明、個別プログラム相談を実施。
- ・あかたにの家活用プログラム体験②として、防災レクリエーション（水消火器・毛布担架作り・新聞紙スリッパ作り・応急手当）の体験をした。



- ・非常食体験（サバイバルクッキング）後、1日目の振り返りを行った。
- ・2日目、朝食を活用した学習プログラムの紹介後、あかたにの家活用プログラム体験③として、防災グッズ作り（新聞紙スリッパ・ゴミ袋で雨がっぱ・段ボールシェルター）の体験をした。

参加者の感想

- ・地域のよさに着目して指導すると、地域への愛着が高まると伺い、目指すところは地域連携・郷土愛・地域への貢献であると明確となった。

<教職員向け研修会の事例② >

燕市防災教育研修会

燕市教育委員会

種 別	防災教育
主 催	燕市教育委員会
日 時	平成 29 年 6 月 14 日（水）・8 月 9 日（水）・10 月 6 日（金）
対 象	燕市内 全小・中学校 20 校 教職員・地域コーディネーター
目 的	燕市の防災力向上に向けて、小中学生の防災力の向上は非常に有意義であり、燕市全体の地域防災力向上にも大きく貢献する。また、新潟県においても平成 26 年度より「新潟県防災教育プログラム」を策定し防災教育を推進しているところである。そこで、燕市の小中学校における防災教育を推進するために小中学校の教職員を対象とした防災教育研修会を開催する。

主な活動内容

- ・1 回目のテーマは「防災教育プログラムの考え方や実践例」として、防災教育の教育課程への組み込み方や、新潟県の小中学校における防災教育実践例を紹介した。
- ・2 回目のテーマは「タブレットを活用した防災教育の実践例」として、タブレットのメリットの紹介や、タブレットで情報検索（ハザードマップ表示・気象情報・水位情報）、タブレットの活用検討ワーク（校内巡検・危険・安全写真撮影・写真投影・模擬授業等）を実施した。



- ・3 回目のテーマは「地域と連携した防災教育の進め方」として、地域との協働による防災教育の実践例の紹介、展開検討ワークショップ「校区の防災学習プランを立ててみよう」として、防災教育の展開における心配や課題の共有、課題の解決方法の検討）を実施した。



・防災教育及び環境教育等の実践に関する地域及び家庭の支援事業

<地域サポートの事例① >

Let's go! サバイバルの館～避難所体験 in トヤノ～

種 別	避難所体験
主 催	新潟市鳥屋野地区公民館
日 時	平成 29 年 8 月 1 日 (火) 14:40 ~ 16:30
対 象	小学校 5 年生～中学校 2 年生 22 名
目 的	<ul style="list-style-type: none">・過去の災害時の避難所の実態から避難所の課題を知る。・避難所で自分にできることを考える。・グループ活動を通してコミュニケーション能力を高める。

主な活動内容

- ・1 日目、アイスブレイクからグループワーク「避難所での生活で困ること・必要なこと」までの活動を担当した。
- ・自己紹介ジャンケンから始まり、避難所でプライベート空間を確保するための「段ボールパーティー」をグループで協力して作るゲームを行った。
- ・グループ名・リーダーを決めた後、段ボールパーティーを作るために、誰が・どんな風に・何をするのか等の作戦を立てる時間を設けると、初対面にも関わらず、話し合いですぐに仲良くなることができた。積極的にお互い声をかけ合い、「今日この段ボールパーティーを使って寝たい！」と防災キャンプならではの体験ができたようだ。



- ・その後「持ちもの見せ合いっこ」を実施。子どもたちは、避難所に必要だと思うものを各自持ってきており、その中からおすすめのものをグループ内で紹介し合った。実際に役に立つものもあれば、家族の形見で安心できるもの等、様々な持ちものがあり、人それぞれ必要だと思うものが違うと気づき、家に帰ったら非常用持ち出し品を準備しようと感じたようだった。
- ・最後に「避難所での生活で困ること・必要なこと」についてグループで考える活動を行った。実際の避難所での写真資料を見せ、避難所では小・中学生ができることを積極的に行うと、大人も自然と元気が出て笑顔になると紹介すると、真剣な表情でうなずいていた。

<地域サポートの事例② >

企業向け災害研修会

種 別	企業向け研修会
主 催	株式会社堤組
日 時	平成 30 年 4 月 18 日（水） 11：45 ～ 14：15
対 象	株式会社堤組 社員
目 的	<ul style="list-style-type: none">・洪水を題材に、地域の被害想定や課題を知り、個人・堤組の一員として、自分・家族・そして地域を守るためにできることを考える。・災害時の家庭の備えを知り、試食体験をする。・災害ボランティアセンターの機能・役割を知る。

主な活動内容

- ・昼食の時間を活用し、非常食体験（アルファ化米・けんちん汁・乾パン）を実施。また、南区社会福祉協議会より、災害ボランティアセンターの機能・役割についてお話しいただいた。
- ・非常食体験では、アルファ化米を作る過程から実施。初めて体験する方が多く、社員の方同士で協力し合いながら、実際に作っていただいた。今回は、えびピラフ・五目御飯の 2 種類をご用意いただき、「こんな種類があるなんて！」と驚かれていた。味の感想は「おいしい！」「量が意外に多い！」等の声上がり、他にもお湯を少し加えて作るけんちん汁や、定番の乾パンも試食いただいた。



- ・次に、研修会では、鬼怒川の堤防が決壊した災害の被害状況やまちの様子について、当時のニュース映像をご覧いただいた。その後、自地域である味方小学校区の地区防災カルテを配付し、地域の災害リスクや避難所、洪水災害からの身の守り方について確認した。
- ・そして、洪水災害から自分と家族を守る「避難行動タイムライン」を考えるワークショップを実施。ある家族を想定し、「いつ」「誰が」「何をするか」について、真剣に話し合っていた。「企業としてできること・やるべきこと」については、土嚢や資材の用意、それらを運ぶ車の準備など具体的な案を出していただいた。

- ・防災教育及び環境教育等の推進、並びに安心安全なまちづくり及び地域づくりに関する交流・イベント事業

こども防災未来会議 2017

～よりよい未来の新潟を子どもと一緒に創るプロジェクト～

種 別	防災イベント
主 催	NPO 法人ふるさと未来創造堂
日 時	平成 29 年 12 月 16 日（土） 10：20 ～ 15：10
対 象	県内 小学校中学年（3～4 年生）の部・高学年（5～6 年生）の部・中学校の部
参加者	小・中学生 58 名、教職員・保護者・地域住民等 128 名 計 186 名
目 的	平成 26 年度に新潟日報社主催で開催された「防災かべ新聞コンクール」の趣旨を継承し、防災について学習した子どもの学習成果の発表と交流、創造と承認の場として毎年開催。

主な活動内容

- ・「防災かべ新聞コンクール」では、防災について学んできた子どもたちが、これまでの学びの過程や学んだことを今後どのように生かしていくのか等、各校が作成した「防災かべ新聞」を発表。



- ・「こども防災未来宣言ディスカッション」では、学校混合グループでの交流・意見交換を実施。バランスのよい食事の考え方を理解し、災害時 3 日間 9 食分の献立を提案させる「できるだけ多くの方が健康に過ごせる 1 日分の献立」を“こども防災未来宣言シート”にまとめ、全体で発表し合い、法人ホームページに掲載し、発信した。

参加者の感想

【小・中学生】

- ・災害時は、避難所で初めて会う人とでも、すぐに協力して、助け合うことが大切だと分かった。
- ・改めて、防災が大切だということが分かった半日だった。その分かったことを地域に伝えて、新潟の人たちが防災に対する意識が高まってもらえるように、私たちが防災リーダーになればいけないと強く感じる事ができた。

【教職員】

- ・全体を通して子ども目線でよく考えていただき、楽しく活動ができた。校外で発表や話し合いをできる機会は貴重なため、次回も参加したい。

参考資料1 サポート実績一覧

学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）及び教育委員会等

○防災教育等に関する打合せ・相談、講師、研修会等 180校 13団体 延べ341回

五泉市教育委員会 学校教育課	新発田市教育委員会 中央公民館	燕市教育委員会 学校教育課
燕市教育委員会 こどもの森・小中川児童館	長岡市教育委員会 学校教育課	新潟市教育委員会 学校支援課
新潟市教育委員会 地域教育推進課	新潟市教育委員会 中央公民館・鳥屋野地区公民館	新潟市教育委員会 西区・西蒲区教育センター
新潟県少年自然の家	魚沼市立湯之谷小学校	南魚沼市立六日町小学校
新発田市立荒橋小学校	新発田市立五十公野小学校	新発田市立加治川小学校
新発田市立川東小学校	新発田市立御免町小学校	新発田市立佐々木小学校
新発田市立猿橋小学校	新発田市立紫雲寺小学校	新発田市立菅谷小学校
新発田市立住吉小学校	新発田市立外ヶ輪小学校	新発田市立天王小学校
新発田市立七葉小学校	新発田市立東豊小学校	新発田市立中浦小学校
新発田市立藤塚小学校	新発田市立二葉小学校	新発田市立本田小学校
新発田市立松浦小学校	新発田市立米倉小学校	新発田市立米子小学校
新発田市立佐々木中学校	新発田市立本丸中学校	上越市立稲田小学校
上越市立黒田小学校	燕市内の全20小・中学校	長岡市立の全82小・中学校及び総合支援学校
新潟県立白根高等学校	新潟市立青山小学校	新潟市立赤塚小学校
新潟市立赤塚中学校	新潟市立味方小学校	新潟市立味方中学校
新潟市立五十嵐小学校	新潟市立五十嵐中学校	新潟市立臼井小学校
新潟市立臼井中学校	新潟市立内野小学校	新潟市立内野中学校
新潟市立漆山小学校	新潟市立大野小学校	新潟市立金津小学校
新潟市立金津中学校	新潟市立葛塚中学校	新潟市立黒崎中学校
新潟市立小新中学校	新潟市立小瀬小学校	新潟市立小針小学校
新潟市立小針中学校	新潟市立小合小学校	新潟市立小合東小学校
新潟市立小合中学校	新潟市立白根北中学校	新潟市立白根第一中学校
新潟市立月潟中学校	新潟市立中之口中学校	新潟市立中之口西小学校
新潟市立中之口東小学校	新潟市立新津第二中学校	新潟市立西特別支援学校
新潟市立根岸小学校	新潟市立早通小学校	新潟市立巻東中学校
新潟市立巻南小学校	新潟市立真砂小学校	新潟市立升潟小学校
新潟市立結小学校	新潟市立木山小学校	新潟市立大通小学校
新潟市立大鷲小学校	新潟市立坂井輪小学校	新潟市立東青山小学校
新潟市立小須戸中学校	佐渡市立羽茂小学校	見附市立今町小学校
見附市立見附小学校	にいがたファシリテーション授業研究会	

地域

○地域防災や防災教育の相談、講師、イベント、研修会等 25 団体 延べ 50 回以上

異文化間教育学会 研究大会（話題提供・パネルディスカッション）

株式会社堤組 企業研修会（土木企業における洪水災害対策・タイムラインワークショップ）

新発田市赤谷地域 避難所見学会（新発田市内小学校が取り組む防災キャンプの紹介・防災講話）

長岡地域振興局 長岡保健所（食の備えを切り口とした防災教育・災害時食のセーフティーネット検討会）

長岡市川崎コミュニティセンター（子ども対象の防災講座 サバイバルクッキングの体験）

長岡市川崎東コミュニティセンター（子ども対象の防災講座 防災グッズづくりの体験）

長岡市子育ての駅 ぐんぐん（母子向け防災講座 洪水・津波災害から自分と子どもを守る）

長岡市子育ての駅 たんぽぽ（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）

長岡市子育ての駅 なかのんひろば（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）

長岡市子育ての駅 にこにこ（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）

長岡市子育ての駅 にじの子広場（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）

長岡市子育ての駅 のびのび（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）

長岡市子育ての駅 わくわく（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）

新潟市北区総務課（新潟地震シンポジウム・災害時の物資支援ワークショップ）

新潟市南区総務課（南区総合防災訓練のサポート・防災講話）

新潟市秋葉区地域課（防災講話）

新潟市金津コミュニティ協議会（地域と小・中学校合同防災訓練のコーディネート）

新潟市葛塚東小学校区コミュニティ協議会（地域と中学校合同防災学習及び訓練の打合せ・講座講師）

新潟市小須戸コミュニティ協議会（地域と中学校合同防災学習及び訓練の打合せ・講師）

兵庫県立大学院大学院減災復興政策研究科（講義・長岡市内の教員とのコーディネート）

ホリカフーズ株式会社 教材開発（災害食を切り口とした学校教育用教材の検討・作成）

与板 中川清兵衛記念 BBQ ビール園

（親子向け防災講座 サバイバルクッキング・防災グッズづくりの体験、スタッフ研修会）

未来塾 2017～行ってみよう！見てみよう！NPO 訪問ツアー in 中越（活動紹介・サバイバルクッキング講座）

連合中越 s j ネット研修会（活動紹介・サバイバルクッキング講座）

（公社）中越防災安全推進機構（ふるさと新潟防災教育推進事業・防災教育の効果を語る会）

資料2 メディア等で取り上げられた活動等

◎新聞掲載（抜粋）

「こども防災未来会議2017」

新潟日報

平成29年12月17日（日）

平成30年2月1日（木）



「長岡市防災教育
コンテンツ学校
サポート事業」
（防災玉手箱）

新潟日報

平成29年10月25日（水）

平成29年12月27日（水）

長岡新聞

平成30年2月5日（月）



小中学校での防災教育を支援 長岡



震災事故から身を守る方法について考えるため、坂之上小で開いた講座＝3月9日、長岡市

啓発活動郷土愛も育んで

ふるさと未来創造堂設立4年目



学校の負担軽減や、防災の専門知識を生かして効果的な指導に
つなげるため、中越防災安全推進
協議会(協議会)と中野さんが
発起人となり、2011年3月
に設立した。県内の学校で講座
を開催し、啓発活動に取り組
長岡市の委託事業で防災関係の
教材などまとめた。『防災
王手組』の作成も関わった。
『防災王手組』は、長岡市の後
上小で、震災事故から身を守る
方法を考える講座を開いた。同

中野さんが「震災から身を守る
し高い。もしもの時の行動を考
えておくことが大切」と呼び掛
けた。児童らは「成金はいつ給
しだった。
震災交換の後、講習を始めた
中野さんが「普段から言葉と話
し高い。もしもの時の行動を考
えておくことが大切」と呼び掛
けた。児童らは「成金はいつ給

講座年100回ペース オリジナル教材も作製



防災教育に関する教材をまとめた『防災王手組』

「具体的には、ペットボトルに
砂と水を入れて瓶状化の仕組み
を学ぶ方法や、新聞紙を使った
食器やスリッパの作り方を学
ぶ教材がとらわれており、各
小学校が防災の授業で活用し
ている。地域の福祉体験の活動
や防災土壌を体験して習得し
たリストもあり、今後に応じて
講習に活用することもできる。

日原小(長岡市)では、4年
生らが王手組の教材を使って学
んだことを、防災展新聞にまと
めた。朝野小(同)では、第
三回防災交換会を開催し、上野
の三八堂を体験した地域住民
の話を聞くなど、各校が取り組
みを進めている。

中野さんは「防災教育は、地
域について調べ、愛着を持つこ
とを、郷土愛にもつなげてい
く。学校と地域、両者が一体とな
って教育に関わり、地域の発展をへん
たい」としている。

◎テレビ出演 UX「ナマ+トク」
平成29年8月19日(金)
平成30年2月2日(金)

他

防災教育をきっかけに地域を学ぶ

NO.1 中野雅明さん

NO.2 中野雅明さん

NO.3 中野雅明さん

NO.4 中野雅明さん

NO.5 中野雅明さん

NO.6 中野雅明さん

NO.7 中野雅明さん

NO.8 中野雅明さん

NO.9 中野雅明さん

NO.10 中野雅明さん

NO.11 中野雅明さん

NO.12 中野雅明さん

NO.13 中野雅明さん

NO.14 中野雅明さん

NO.15 中野雅明さん

NO.16 中野雅明さん

NO.17 中野雅明さん

NO.18 中野雅明さん

NO.19 中野雅明さん

NO.20 中野雅明さん

NO.21 中野雅明さん

NO.22 中野雅明さん

NO.23 中野雅明さん

NO.24 中野雅明さん

NO.25 中野雅明さん

NO.26 中野雅明さん

NO.27 中野雅明さん

NO.28 中野雅明さん

NO.29 中野雅明さん

NO.30 中野雅明さん

NO.31 中野雅明さん

NO.32 中野雅明さん

NO.33 中野雅明さん

NO.34 中野雅明さん

NO.35 中野雅明さん

NO.36 中野雅明さん

NO.37 中野雅明さん

NO.38 中野雅明さん

NO.39 中野雅明さん

NO.40 中野雅明さん

NO.41 中野雅明さん

NO.42 中野雅明さん

NO.43 中野雅明さん

NO.44 中野雅明さん

NO.45 中野雅明さん

NO.46 中野雅明さん

NO.47 中野雅明さん

NO.48 中野雅明さん

NO.49 中野雅明さん

NO.50 中野雅明さん

NO.51 中野雅明さん

NO.52 中野雅明さん

NO.53 中野雅明さん

NO.54 中野雅明さん

NO.55 中野雅明さん

NO.56 中野雅明さん

NO.57 中野雅明さん

NO.58 中野雅明さん

NO.59 中野雅明さん

NO.60 中野雅明さん

NO.61 中野雅明さん

NO.62 中野雅明さん

NO.63 中野雅明さん

NO.64 中野雅明さん

NO.65 中野雅明さん

NO.66 中野雅明さん

NO.67 中野雅明さん

NO.68 中野雅明さん

NO.69 中野雅明さん

NO.70 中野雅明さん

NO.71 中野雅明さん

NO.72 中野雅明さん

NO.73 中野雅明さん

NO.74 中野雅明さん

NO.75 中野雅明さん

NO.76 中野雅明さん

NO.77 中野雅明さん

NO.78 中野雅明さん

NO.79 中野雅明さん

NO.80 中野雅明さん

NO.81 中野雅明さん

NO.82 中野雅明さん

NO.83 中野雅明さん

NO.84 中野雅明さん

NO.85 中野雅明さん

NO.86 中野雅明さん

NO.87 中野雅明さん

NO.88 中野雅明さん

NO.89 中野雅明さん

NO.90 中野雅明さん

NO.91 中野雅明さん

NO.92 中野雅明さん

NO.93 中野雅明さん

NO.94 中野雅明さん

NO.95 中野雅明さん

NO.96 中野雅明さん

NO.97 中野雅明さん

NO.98 中野雅明さん

NO.99 中野雅明さん

NO.100 中野雅明さん